

# 第7回 荒川区区政改革懇談会

## グループ討議会議録：瑠璃

### 【日時】

12月14日(水) 19:00~21:00

### 【場所】

荒川区役所 議員待遇者室

### 【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ3：防犯・防災分野について

ステップ2：最終報告に向けて

ステップ4：今日の話し合いの結果を確認しよう

ステップ5：その他

### ステップ1：はじめに

コンサルタントより、今までの話し合いの内容確認がなされた。また、2月の最終発表会に向けて、今までの議論を踏まえて話し合っていくこととした。

### ステップ2：最終報告に向けて

中間発表会の資料をもとに、メンバーで内容を共有し肉付けをしながら、意見交換をすることとした。また、コンサルタントより、最終報告会に向けた資料を作成するために、コンパクトにまとめられた資料を作成したいとの提案があった。

#### 【ファッションによるまちづくりについて】

- あらかわアカデミー構想の中に記載してある「服飾系の専門学校を多数誘致」や「デザイナー支援」というところは、どういう意味なのか。背景を知りたい。
- 荒川区は観光で人を呼べる場所がないのが弱点である。だからこそ、日暮里の繊維街や菓子問屋を生かしていきたい。出来るとか出来ないの現実論ばかりではなく、創意と夢のあるプランを出したいと思い、発表をした。
- 日暮里の繊維街は生地を売っている場所で、デザイナーが集まる場所ではない。しかし、ファッション性等の大枠での展開は面白いと思う。台東区の皮革産業は、バックや靴の職人とデザイナーが共同で作品を作ったりして、うまくいっているが、日暮里には職人さんがいるわけではなく、商業者だけなので、同様にはいかない。ファッションショー等を催しているが、難しい面がある。
- 工業分野では、周辺の町工場や航空高専等を巻き込んで、バウハウスのようなものができたら良いと思う。現実論は別として、良い夢だと思う。

#### 【提案のあり方】

- 本来は、我々が一方的に意見を言うだけでなく、日暮里周辺の人達の考えや意見を聞く必要がある。夢を表現するためには具体的に表現したいが、当事者から受け入れられ

ない恐れがあるので、裾野を広げた、誰もが入りやすいようなものを表現したい。

- 日暮里の間屋街は、昔から代々続いているお店が多いので、新しい考えを取り入れる事に積極的でない側面がある。日暮里にオリジナル性がある店ができたらと思うが、商業者を動かす方法があるだろうか。
- 提言をする事によって、変えたいと思っている人が心強く思うかもしれない。あらかじめアカデミー構想を柔らかい表現の文章に分解して文章化し、夢のある構想を出してみても良いのではないか。

### ステップ3：防犯・防災分野について

#### 【現状と課題】

- 子どもを狙った事件が多いので、アカデミー構想の中に独自の提言が必要なのではないか。
- 子どもパトロールの人達が通学路に立っているのは、異様な光景だと思う。防犯面でも、下町らしい横のつながりを生かし、何か起こった時には、すぐ近所に立ち寄れるような制度を作ったらどうか。
- 学校が責任を持つのは区内だけで、区外へ通学をしている子ども達は、自分たちで自衛するしかない。

#### 【対策など】

- 他区では子ども達に PHS を配布している。防犯のために機械やシステムを利用するのは良いが、人との連携が一番の抑止力になると思う。PHS 等の機械には頼らず、荒川区の横のネットワークを生かしたい。行政でできない事と区民ができない事の情報を共有し、お互いにタッグを組んで、うまく機能していければ良いと思う。
- 公衆電話が少なくなり、携帯電話を利用しない高齢者や子ども達は不便に思っている。いざという時に駆け込める家があれば良いと思う。
- 防犯・防災は、横のつながりが大切である。横(隣近所)の連携からまち(地区)の連携になり、それが広がり、区全体の連携になる。
- 子どもの通学時に父兄が周辺をパトロールしているが、負担に思う父兄は、他所の学校へ子どもを通わせる場合が多い。また共働きや多忙の家庭はパトロールに参加できない場合が多い。そういう意味では、世代を超え、祖父母世代(シルバー世代)の協力が必要である。
- マンション等の新しい住民の人達には、マンションの自治会や管理組合、町会に参加してほしい。お互いの顔がわかるような状態でないと、防犯・防災や福祉の面でうまく連携できないのではないか。
- 荒川区は、協力者のお宅へ貼ってもらうように「わがまちあんしん 110 番」シールを配布していると聞いたが、一般家庭や子ども達に伝わっていない。もっと PR が必要なのではないか。さらに「わがまちあんしん 110 番」シールを貼っているご家庭の方を、子ども達の学校の給食に招待したり、学芸会に招待したりして、お互いの顔がわかるようにしたらどうか。
- 防犯・防災面で、「イキ」に地域の“域”を使用してみたらどうか。

## ステップ4：今日の話し合いの結果を確認しよう

最終報告会に向けてのまとめ方について、再度確認することとした。コンサルタントより、次回までに、たたき台を作りたいとの提案があった。

### 【最終報告の取り扱い】

- 最初に確認したいが、審議会に向けて、区のたたき台はまったくの白紙なのか。
- 審議会に向けて、区民がこうなって欲しいという考えが、生で伝えられると期待している。

### 【たたき台の作成】

- あらかわアカデミー構想をまとめるのは難しいので、皆で分担してまとめるか、たたき台を出した委員が、今までの話し合いを基に修正した方が良いか。
- あらかわアカデミー構想を担当した委員が、皆の意見を基に、たたき台を作成した方が良いのではないか。
- 「イキ」の5ワード(生・憩・粋・活・往)に合わせて、まとめても良いのではないか。
- 行政の方では、行政のスタイルに合った文体が好まれるだろうが、瑠璃グループらしい「イキ」の字体を使って表現しなければ、個性が無くなってしまう。

### 【その他】

- あらかわ区報 Jr.の記事はとても面白いので、もっと広報活動をした方が良いのではないか。また、ある程度記事がたまったら、一冊の本にすると良いと思う。

## ステップ5：その他

### 【次回について】

次回日程は、1月11日(水) 19:00より。

以上